

三
村
晃
功
編

明
題
拾
要
鈔

上

古
典
文
庫

三村晃功編

明
題
拾
要
抄

古
典
文
庫

古典文庫第六〇八冊

平成九年七月二十日印刷発行

非売品

鈔要拾題明
上

編者	三 ^み 村 ^{むら} 晃 ^{てる} 功 ^{のり}
発行者	吉田幸一
印刷者	共立印刷株式会社
製本者	(有)武蔵製本

発行所

114

東京都北区西ヶ原
三ノ三四ノ一二

古典文庫

電話〇三(三九一〇)二七一七
振替口座〇〇一九〇一九一四五九七番

明題拾要鈔上

盛岡市中央公民館藏

目次

一	凡例	五
二	明題拾要鈔	
卷一		九
卷二		八七
卷三		一五三
卷四		二二三
卷五		三三三

凡 例

一、本書は盛岡市中央公民館蔵の『明題拾要鈔』（元禄七年版本）を底本にして、忠実に翻刻したものである。

二、翻刻に際しては、次のような方針に従った。

1、漢字・仮名の別、仮名遣い、送り仮名等すべて底本のままとした。ただし、漢字の字体は、おおむね通行字体に従った。

2、底本の誤脱、誤字などもそのままとしたが、明らかに底本の誤りと認められる場合に限り、（ママ）と傍注した。

3、底本の異本注記等はそのままとした。

4、便宜上各歌に一連番号を付し、作者索引に便ならしめた。

5、丁数表示については、改丁箇所に「」を施し、その下に丁数を表す算用数字を記した。

三、解題は、成立の問題を中心に考察して公表した『明題拾要鈔』の成立』（『光華女子大学研究紀要』第三十四号、平成八年十二月刊）に、多少の補訂を施したものである。

四、作者索引は、実名を主に漢音によつて五十音順に従つて掲載した。詳しくは、作者索引の凡例によりたい。

五、上巻には『明題拾要鈔』一―五を収めた。下巻には『明題拾要鈔』六―七を収め、さらに解題、作者索引を添えた。

六、初句索引は紙幅の関係で省略したが、『光華女子大学研究紀要』第三十五号（平成九年十二月刊行予定）に、掲載を予定している。

七、本書が成るに際しては、翻刻のご許可を賜った盛岡市中央公民館に、深謝申し上げます。

平成九年一月三日

三村 晃功

〔序〕

やまと哥は題を求て詠ずるをよしとすと、中比の先達申されき。それよりこのかた世々にかさなりて、浜の真砂の数ぐになむ及べり。中にも結び題の内には、虚字あり、実字あり。虚字はその心をよまでもありぬべし。実字はその文字の心を深く思ひ入てあらば、その心をあらはによみ、あるはまはしなどして読に、たやすからぬによて、題の内に実字たらむ文字を一処にあつめ、かれこれにかよはしてその心を玩味すべき為に、全部七冊、なづけて明題拾要鈔といふになむありけらし。

明題拾要鈔一目録

● 鶯出。谷

出。山月

紅葉出。垣

詞出。恋

出。湯

● 晚鶯入。霞

泉声入。夜寒

蘭香入。簾

曉月入。窓

入。簾殘月影

曉出。月

月出。山

初言出。恋

隱士出。山

梅香入。閨

涼風入。簾

虫声入。琴

秋月入。簾

惜八。月

夕出。月

松月出。山

言出。恋

漁父出。浦

落花入。簾

秋風入。簾

入。夜聞雁

山月入。簾

落葉入。簾中

〔自一至二〕

松月入夜琴

〔自一至三〕

●春到氷解

野遊到暮

花をたつね遠くいたる

早涼至。

擣衣到曉

山館冬至。

仏名到曉

寂寞柴門不到人

〔三丁〕

●殘花何在

殘花在何

擣衣何所

晚鐘何寺

●春色。

花色。

花悦色。

春色有花

花有喜色。

夏色。

秋色。

冬色。

雜色。

〔自二至四〕

●白菊戴露

庭草戴雪

〔四丁〕

●春月言志

花下言志

憶牛女言志

星夕言志

月前言志

〔自四至五〕

●念早苗

歲暮念

歲暮忙。

歳暮急。

念。別恋

●梅花厭。雨

槿籬厭。夕

庭雪厭。人

被厭。恋

●被厭賤。恋

●梅未。開

未。開花

花未。遍

未。飽花

山花未。落

郭公未。遍

歳暮急。出水

花厭。風

曉月厭。雲

老人厭。寒

厭。身恋

い。やしきをいとふ

早蕨未。遍

未。発花

山花未。遍

心未。飽花

花未。忘

郭公未。飽

急。別恋

対花厭。風

庭雪厭。跡

厭。恋

見形厭。恋

花未。開

山花未。綻

望花未。飽

落花未。遍

未。聞郭公

未。飽郭公

〔五丁〕

〔自五至六〕

〔六丁〕

薄未出穗

草花未遍

槿未開

未出月

雲雁未來

河霧未晴

紅葉未遍

雪未深

未言出恋

未見恋

〔自六至八〕

● 祈恋

初祈請恋

忍祈恋

久祈恋

祈久恋

祈身恋

絶祈恋

祈神恋

祈神不逢恋

祈仏恋

詣古寺祈恋

祈年祭

祈年穀奉幣

祈雨

〔自八至十〕

● 秋夕傷心

見月傷老

〔十丁〕

春駒嘶

野馬夜嘶

〔同丁〕

● 遙峯帶晚霞

歸雁遙

去雁遙

遙見歸雁

遙尋花

遙望山花

遙。見。山。花。

遙。見。藤。花。

遙。望。卯。花。

遙。聞。郭。公。

遙。聞。鹿。聲。

遙。思。月。

遙。見。行。客。

●花。恥。老。

對。花。恥。老。

●弓。張。月。

〔同丁〕

●柳。掃。水。

波。掃。黃。柳。梢。

見。花。不。掃。庭。

風。掃。落。花。

柳。掃。池。水。

荻。風。掃。露。

鶴。掃。霜。

惜。花。不。掃。庭。

●晴。

晴。天。遊。糸。

掃。雪。待。客。

晴。夜。歸。雁。

五。月。雨。晴。

晴。天。歸。雁。

晴。天。殘。月。

晴。雪。落。長。松。

晴。夜。月。

晴。天。鶴。

晴。後。遠。水。

●初。鶯。

初。聞。鶯。

梅。始。開。

〔自十一至十二〕

〔自十至十一〕

〔十一丁〕

〔同丁〕

梅花始。開

初。見。花

始。聞。郭。公

初。雁

初。見。紅。葉

江。水。始。冰

弓。場。始。

● 郭。公。早。過

早。梅

迅。瀨

● 雲。端。歸。雁

● 梅。似。雪

柳。似。眉

花。初。開

初。郭。公

初。五。月。雨

初。聞。雁

冰。初。結

初。雪

射。場。始。

夕。立。早。過

歲。暮。從。水。早。

叢。端。蛩

柳。露。似。玉

歸。雁。似。字

初。花

郭。公。初。聲

始。見。草。花

初。紅。葉

山。水。始。冰

初。戀

草。花。早。

速。

柳。似。烟

待。花。似。戀

〔自十二至十五〕

〔自十五至十六〕

〔十六丁〕